

## 指定管理者評価シート

事業名	札幌市民交流プラザ運営管理費	所管課(電話番号)	市民文化局文化部文化振興課(211-2261)
-----	----------------	-----------	-------------------------

### I 基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌市民交流プラザ	所在地	中央区北1条西1丁目
開設時期	平成30年10月	延床面積	37,332㎡
目的	文化芸術活動及び生涯学習の振興並びに人々の来訪及び交流の促進を図り、もって市民の創造性を育むとともに、市民生活の質の向上を実現するほか、地域のにぎわいの創出に寄与することを目的とする。		
事業概要	札幌文化芸術劇場等、施設の管理運営。文化芸術振興のための主催事業の実施。		
主要施設	札幌文化芸術劇場、札幌文化芸術交流センター、札幌市図書・情報館(※教育委員会の直営)		
2 指定管理者			
名称	公益財団法人札幌市芸術文化財団		
指定期間	令和2年4月1日～令和7年3月31日		
募集方法	非公募 札幌市民交流プラザは様々な文化芸術に触れる機会の提供やアートマネジメント人材の育成などを担う施設であり、また、本市の文化芸術施設間の連携の中心拠点となり、幅広い分野の事業展開を行う札幌文化芸術交流センターは、文化芸術施策の一体的な推進を図るため、市内各文化芸術施設との一体的管理が必要である。また、スタッフの人材育成については、長期的に行っていく必要がある。さらに、設置目的に沿った運営を行っていくためには、札幌市による指定管理者への継続的かつ積極的な関与が必要であることから、非公募とした。		
指定単位	施設数:1施設 複数施設を一括指定の場合、その理由:		
業務の範囲	施設維持管理業務、貸館業務(利用料金制度)、施設における事業の計画及び実施に関する業務		
3 評価単位	施設数:1施設 複数施設を一括評価の場合、その理由:		

## II 令和4年度管理業務等の検証

項目	実施状況	指定管理者の自己評価	所管局の評価
1 業務の要求水準達成度			
(1)統括管理業務	<p>▽ 管理運営に係る基本方針の策定</p> <p>▼ 「文化芸術活動及び生涯学習の振興並びに人々の来訪及び交流の促進を図り、もって市民の創造性を育むとともに、市民生活の向上を実現するほか、地域のにぎわいの創出に寄与する」というプラザの設置目的に基づき、以下の6つの基本方針を策定した。これを基に、当財団だからこそ実現可能な主催事業や当財団が管理運営を行う他施設との連携事業などを通じて、市民の多様なニーズを捉えたオリジナリティに溢れた施設運営に取り組んだ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 良質かつ多彩な文化芸術の提供と北海道発の文化芸術の創造</li> <li>② 文化芸術の水準を高める拠点としての役割</li> <li>③ 今後の文化芸術を担い、支える人々の育成</li> <li>④ すべての人々が文化芸術を享受できる開かれた施設</li> <li>⑤ あらゆる人々がつながり、交流するにぎわいの空間</li> <li>⑥ 安全・安心・快適な施設環境の提供</li> </ol> <p>▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績</p> <p>▼ 札幌市の公の施設であることに鑑み、公平性を重視した運営を行うため以下の方針を策定し、実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 公開抽選による施設申込 利用月13か月前の一斉受付による申込受付</li> <li>② 随時予約による施設申込 一斉受付終了後、空き施設を先着順で受付</li> <li>③ 優先受付による施設申込 長期の準備が必要かつ大規模な事業に限り、24か月前の受付</li> </ol> <p>▼ 特定団体の専有を防止し、多くの利用者への平等な利用を実現するため、連続利用を原則7日以内に制限している。</p>	<p>第2期指定管理期間の市民交流プラザの管理・運営を実施するに当たり、札幌市民交流プラザの設置目的を実現していくための基本指針に沿って運営することができた。</p> <p>施設の空き状況等について、電話での問い合わせ対応やホームページで常時確認可能な状態とすることで、平等かつ公平な利用機会を広く市民に提供した。</p> <p>毎月、公開抽選で利用開始するとともに、目的を達成するための主催事業は貸館事業に配慮するなど、多くの方に利用していただけるよう努めている。</p>	<p>A B C D</p> <p>6つの基本方針に基づき、人々に広く開かれた文化芸術施設として、平等性・公平性を重視し、施設利用者への丁寧な対応、施設の利便性向上に努めている。</p> <p>利用者とも運営協議会で情報共有を行っており、市民サービスや管理水準の維持向上に努めている。</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策として定期的な換気を行いつつ、省エネルギーの促進や環境に配慮した取組を行っている。</p> <p>業務上必要な研修を行い、各職員が担当業務を完全に理解し、業務実施に支障が出ない状況を確認した。</p> <p>以上のとおり、本市の要求水準を満たす適切な管理が行われている。</p>

## ▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進

▼「札幌市環境基本計画」に順じ、環境保護、コストの縮減、職員への環境意識の徹底に努めた。

具体的には、まず照明に関して、設備員との打合せを密にし施設貸出時間外の点灯を必要最小限に抑え、全館の照明スケジュールも定期的に見直すことで徹底的に節電に努めた。毎日の貸室チェックにて、利用者退出後の空調スイッチの切り忘れを見つけるとも節電に繋がっている。

また、空調(換気を含む)については、貸出時間外の施設も温湿度の一定程度の維持や感染症対策のため、稼働は必要ではあるものの、設定を間欠運転(稼働・停止を一定時間毎に繰り返す)とすることで、省エネルギーとの両立を図った。

▼札幌市環境マネジメントシステムに則り、エネルギー等の使用実績を集計し、省エネルギーの推進及び温室効果ガスの排出抑制に取り組んだ。

## ▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成)

▼市民交流プラザ事業部長(館長)を施設の統括責任者として配置している。

また、各課で行う事業特性や業務量を考慮し、適切な人員配置を行い、安定的に運営を行った。

▼基礎的・専門的知識の向上のため、以下の職員研修を実施した。

- 4月・5月 新採用研修  
コンプライアンス研修
- 8月・9月 管理職マネジメント研修
- 10月 コンプライアンス研修
- 12月 管理職マネジメント研修
- 1月・2月 情報セキュリティポリシー研修
- 2月・3月 アンコンシャスバイアス研修
- 3月 普通応急手当講習

設備員との連携を密にし、都度適切な対応を検討した結果、エネルギーの消費を最小限に抑えることができた。引き続き、職員の意識を高め、省エネルギーの促進に努めたい。

湿度計測を通じ、蒸気加湿を行う期間を短縮するなど、省エネルギーを推進するとともに温室効果ガスの排出を抑制することができた。

業務の実態に応じた人員配置や増員を行い、組織体制の適正化に努めた。

また、各従事者の能力向上および職務環境整備のために多様な研修を実施し、施設の安定的な運営体制づくりに努めた。

▽ 管理水準の維持向上に向けた取組

▼ 財団管理の各施設をネットワークで結び、共用のグループウェアソフトを活用することで、迅速かつ効率的な情報共有・意思疎通を図っている。

また、財団共用の財務・会計システム利用により、予算執行状況の把握・各種伝票の起票を効率的に行っている。

▼ 事業部内では職員だけではなく、清掃・警備・設備・舞台技術等の常駐委託業者とも上記グループウェアソフトを活用し、情報共有・連絡伝達を行っている。

情報共有の媒体を一元化することで、利用者・来館者への迅速かつ正確な対応に繋げている。

▼ 各常駐委託業者と日常的に綿密な連絡体制を敷くことで、業務中に発生した問題等は速やかに報告を受け、対処を行った。

また、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策においても綿密に連携し、徹底した感染防止体制を敷くことで、安全・安心に利用できる施設となるよう努めた。

日常的な情報共有を迅速・正確に行うことで、来館者へ適切な対応を行い、ひいては市民へのサービス向上へ繋げることができた。

また、新型コロナウイルス感染症対策においても、各常駐委託業者と綿密な連携を図ることで、引き続き、利用者が安全・安心に利用できる施設運営を実現させることができた。

▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)

▼ 業務仕様書に基づき、安全な施設運営を行うために必要な専門性を有する人材の確保、及び適正な業務履行の徹底を要請した。

委託者側、受託者側双方に責任者を置き、常に業務の実施状況を共有したほか、受託者より提出を受けた業務完了報告書による履行確認を行った。

## ▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)

開催回	協議・報告内容
第1回 (R4.5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度の施設の利用状況について</li> <li>・施設利用に伴うアンケートの集計結果について</li> </ul>
第2回 (R4.9)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の利用状況について(令和4年4月～7月)</li> <li>・施設利用に伴うアンケートの集計結果について</li> </ul> <p>※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、Zoomによるオンライン開催</p>
第3回 (R5.1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の利用状況について(令和4年4月～12月)</li> <li>・施設利用に伴うアンケートの集計結果について</li> <li>・避難訓練コンサートの実施報告について</li> </ul> <p>※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、Zoomによるオンライン開催</p>
第4回 (R5.3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の利用状況について(令和4年4月～令和5年2月)</li> <li>・施設利用に伴うアンケートの集計結果について</li> <li>・一時滞在施設の対応について</li> </ul> <p>※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、Zoomによるオンライン開催</p>
<p>&lt;協議会メンバー&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元自治会: 中央地区町内会連合会総務部長</li> <li>・利用者: 音楽事務所代表</li> <li>・有識者: 大学教授</li> <li>・行政: 札幌市市民文化局文化部長 札幌市教育委員会 図書・情報館長</li> <li>・指定管理者: 市民交流プラザ館長 事業推進担当部長</li> </ul>	

新型コロナウイルス感染拡大防止として、オンライン開催を基本としつつ、施設の運営状況や利用促進の取組について、有識者等の外部委員より専門的見地から助言を得たり、有益な情報を共有したりすることで、施設の適切な運営や利用促進、利便性の向上に繋げることができた。

## ▽ 財務(資金管理、現金の適正管理)

▼ 資金管理については、指定管理業務、自主事業ごとに区分した経理を実施しており、公認会計士による外部会計監査を導入している。

▼ 現金等の取り扱いについては、現金取扱要綱を策定し、分任出納員として任命された職員による厳正な管理を行い、財団の内部監査や市による業務検査などで定期的な確認作業を行った。

▼ 現預金の入出金については、複数の職員による相互確認を実施し、不適切な処理が行われないようチェックした。

複数人体制での現預金の取扱や内部監査等の実施により相互牽制を行うことで、適正かつ透明性の高い資金管理を行うことができた。

## ▽ 要望・苦情対応

▼ 要望・苦情は発生次第速やかに対応を検討し、担当する部署及び館長とも共有したうえで、対応を行った。

また、利用者・来館者から寄せられた要望・苦情については、関係する常駐委託業者とも情報共有を行い、利用サービスの向上に繋げた。

▼ ホームページにお問い合わせフォームを設け、問い合わせや要望・苦情が寄せられた際には、図書・情報館やその他の関係部署を交え対応を検討し、電子メール等で迅速な回答を行うとともに、今後の利用サービスの向上に繋げた。

▼ 市の関わりが必要と考えられる要望・苦情については迅速に市に報告した。

要望・苦情の対応事例を速やかに内部共有することで、管理運営上の課題の発見や運営水準の向上に反映させる契機とすることができた。

## ▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施)

▼ 指定管理業務に関する下記の記録・帳簿等については適切に整備保管した。

- ・ 管理業務に関する諸規定
- ・ 文書管理簿
- ・ 各年度の事業計画及び事業報告書
- ・ 収支予算・決算に関する帳簿
- ・ 金銭出納に関する帳簿
- ・ 物品の受払いに関する帳簿
- ・ 各種業務に関する記録書類及び札幌市が必要と認める書類

▼ セルフモニタリングについては、来館者、利用者、主催事業の参加者の満足度を測定するため、アンケート調査を実施した。また、半年ごとに業務検査や財務検査を行い、業務に関する自己チェックを実施した。

▼ 札幌市への事業報告や事業評価等については、協定の定めに応じて提出をした。

業務の実施状況や利用者等の意見を適切に記録・保管することで、照会等への対応を円滑化したほか、サービス水準の維持・向上のために活用することができた。

(2)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上	▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上(事故の有無などの安全衛生面を含む)		A B C D
	<p>▼ 適正な内容で36協定を締結したほか、雇用環境の維持向上のため、関係法令に基づき財団諸規則等の見直しを行い、労働基準監督署に届け出た。</p> <p>▼ 給与の額や支給方法等の雇用条件については、財団の例規として、職員、契約職員、パート職員の各々について就業規則を定めているほか、職員については別途給与規程を制定し明示している。これらを変更する場合には職員の過半数を代表する者の意見を聴取し、行政官庁への届出を行っている。また、賃金台帳など法定帳簿等も整備している。</p> <p>▼ 就業規則を含む例規集は、グループウェアソフトにより、常に各職員が閲覧可能な状態としている。</p> <p>▼ 毎月の給与の計算や社会保険・労働保険関係の各種手続き等は、財団の総務部署を通じて社会保険労務士事務所に委託しており、労働関係法令改正への対応についても、社会保険労務士と相談して行っている。</p> <p>▼ 当財団衛生委員会要綱に準じ衛生委員会を開催し、衛生管理者、産業医とともに労働災害の防止、職員の健康維持、職場環境の向上に努めている。</p> <p>▼ 産業医の選任のほか、顧問弁護士も導入しており、これらの専門家による、心身の健康面、雇用、仕事以外の事柄も含めた個別相談に応じる体制を採っている。</p> <p>▼ 労働環境を向上させるため、年5日以上有給休暇の取得徹底や、業務の見直しなどによる時間外勤務の削減に努めた。</p> <p>▼ 新型コロナウイルス感染症対策の一環として、引き続き、職員の接触機会削減のための在宅勤務を可能とした。</p>	<p>労働関係法令順守のため、管理職を中心に長時間労働に関する各職員の状況把握に努め、業務効率化や業務分担の見直しなどにより、時間外勤務の削減を図ることができた。また、年次有給休暇についても全職員が5日以上取得できた。</p> <p>衛生委員会では、産業医立会いによる職場巡視を実施し、職場内での事故防止・安全面の維持向上を図ることができた。</p>	<p>36協定の適正な締結、衛生委員会の設置、産業医や顧問弁護士の導入を行うだけでなく、時間外勤務の抑制や年次休暇の取得促進が実現する等、それら制度が実効的に機能していると認められる。</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策として、在宅勤務を可能にするなど、職員の健康に配慮した労働環境の整備を行った点は評価できる。</p> <p>業務の性質上、時期による業務量の差は生じるものの、財団全体として雇用環境の維持向上を図るため、さまざまな取組を進めており、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。</p>

(3)施設・設備等の維持管理業務	▽ 総括的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入)	利用者が安全かつ快適に利用できる環境を整備し、施設に関する異変等には速やかに対応するとともに、事後の対応においても原因究明を徹底して再発防止に努め、施設の維持管理を行うことができた。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">関係法令を遵守し、点検についても適切に実施している。</td> </tr> <tr> <td colspan="4">また、さっぽろ創世スクエア管理組合との連携・調整に取り組んでおり、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。</td> </tr> <tr> <td colspan="4">加えて、一時滞在マニュアルを整備することで、非常時の運営について確実に準備を進めている。</td> </tr> <tr> <td colspan="4">以上より、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	関係法令を遵守し、点検についても適切に実施している。				また、さっぽろ創世スクエア管理組合との連携・調整に取り組んでおり、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。				加えて、一時滞在マニュアルを整備することで、非常時の運営について確実に準備を進めている。				以上より、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。			
A	B	C	D																				
関係法令を遵守し、点検についても適切に実施している。																							
また、さっぽろ創世スクエア管理組合との連携・調整に取り組んでおり、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。																							
加えて、一時滞在マニュアルを整備することで、非常時の運営について確実に準備を進めている。																							
以上より、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。																							
	<p>▼ 拾得物及び遺失物は、さっぽろ創世スクエア管理組合と情報共有を図り、利用者からの問い合わせに対して即時に対応できるよう努めている。なお、一定の保管期間が経過し、引き取りのない拾得物や、貴重品については最寄りの警察署または交番に引き渡し、適切な処理に努めている。</p> <p>▼ 施設の利用者の安全確保と安全性向上のため、定期的な巡回や点検を行っている。特に、施設内の共用スペースにおいては多数の来館者が往来するため、防犯カメラを設置・運用することで、非常時に的確・迅速に対応ができるよう備えている。</p> <p>▼ 緊急時の連絡体制を構築するとともに、指定管理の仕様書に記載されている内容の保険には、継続して加入している。</p>																						
	<p>▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等)</p> <p>▼ プラザ内の各施設(劇場、センター、諸貸室)において、計画的な清掃・警備を行い、美化・安全確保に努めた。また、備付備品や貸出備品についても、定期的に点検を行い、常に利用者が最良の状態で使用できるよう維持・管理を行った。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、貸出施設や備品、利用者用ロッカー、エレベーター内操作盤等の消毒・換気は、前年度から引き続き一層配慮して対応を行った。</p> <p>▼ 施設設備については、日常点検をはじめ、不具合が発生した際は早期発見・対応が可能なように設備保守の常駐委託事業者と密に連携を図った。</p> <p>▼ 施設への搬出入用駐車場については、運用マニュアルを作成して管理運営を行い、警備員との連絡を密にして駐車場の利用者が安全、かつ円滑に駐車できるように努めた。なお、共用部(緑化等)はさっぽろ創世スクエアの管理組合が適切に管理している。</p>																						
	<p>▽ 防災</p> <p>▼ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止していた劇場公演・来場者を伴う防災訓練「避難訓練コンサート」を10月に約3年ぶりに開催し、全職員で地震・火災発生時の劇場からの避難誘導等の方法を再確認した。また、翌3月には職員のみで訓練を行い、防火戸の開閉についての模擬体験等を行った。</p> <p>▼ 市民交流プラザは大地震等発災時に帰宅困難者を受け入れる一時滞在施設として開設する旨、札幌市と協定を結んでいるため、その運営マニュアルを作成、3月の防災訓練にて職員に周知を図った。</p>	<p>実際に来場者の避難誘導を行う「避難訓練コンサート」を通して、座学で得た知識の定着が図られ、具体的な動きを再確認できた。</p> <p>「一時滞在施設マニュアル」の作成・周知により、帰宅困難者受け入れ態勢を整備することができた。</p>																					



## (4)事業の計画・実施業務

## ▽ 札幌文化芸術劇場に関する事業

## ▼ 創造事業

hitaruを「創造の場」として地元で活躍する様々な芸術団体との連携のもと札幌発の実演芸術公演を展開し、市民に質の高い文化芸術に触れる機会を提供した。地元のオペラ団体、教育機関、実演芸術家などの協力を得てhitaruを舞台としたオペラを創造・発信するhitaruオペラプロジェクトの第1回として、モーツァルト作曲「フィガロの結婚」を上演した。また、出演者からスタッフまで、全メンバー札幌在住の人材を起用した新規創造事業として約1年間の制作期間により創り上げた「Creative Art Mix」をクリエイティブスタジオを会場に開催したほか、令和5年度に開催する第1回hitaruバレエプロジェクト「くるみ割り人形」キャストオーディションを実施した。

○hitaruオペラプロジェクト モーツァルト「フィガロの結婚」

《関連事業》

・合唱オーディション

・hitaruのひとつき 声優朗読劇 VORLESEN～フィガロの結婚～

・「フィガロの結婚」カヴァーキャストによるスペシャルコンサート

～アンコウ先生のお話とともに～

○Creative Art Mix～RE: BORN～

《関連事業》

・Creative Art Mix～RE:BORN～ダンスワークショップ

○hitaruバレエプロジェクト「くるみ割り人形」オーディション

「フィガロの結婚」では地元の人材を結集し、hitaruの舞台機構を存分に活用したオペラ作品を創造。市民の鑑賞機会を提供するとともに、地元音楽家やスタッフの育成にも寄与した。作品への理解や興味を深めてもらえるよう、演出家やカヴァーキャストによるイベントや札幌大谷大学教授によるレクチャーなど普及啓発にかかる関連事業も併せて実施した。

「Creative Art Mix」では、札幌市の第一線で活躍する多様なジャンルの芸術家に表現の場を提供した。新しいコラボレーションを生み出すとともに、SCARTSアートコミュニケーション事業と連携し、制作過程の一部公開等を行った。「フィガロの結婚」「Creative Art Mix」では令和5年度にそれぞれ有料アーカイブ配信を行い、コロナ禍における芸術文化の鑑賞機会を創出するとともに、hitaru独自の創造事業を広く発信する機会とする。

A	B	C	D
創造事業			
では、「hitaruオペラプロジェクト『フィガロの結婚』」公演を全メンバー札幌在住の人材を起用して実施し、北海道発の高品質な実演芸術公演を実現した。また、「Creative Art Mix」では、ジャンルを超えたコラボレーションにより、市民が新たな文化芸術に触れる機会を創出した。			

## ▼ 鑑賞事業

多面舞台と最新の舞台機構を生かし、世界水準のバレエ、ダンスなど本格的な舞台芸術による「鑑賞の場」を多彩な内容で市民に提供した。また、親しみやすい内容の公演を低廉な入場料で開催し、幅広い層の市民に実演芸術の魅力を伝えた。

○ 山海塾「降りくるものなかで—とぼり」(※出演者の体調不良のため中止)

◀ 関連事業 ▶

・山海塾 舞踏手 蟬丸によるワークショップ(※出演者の体調不良のため中止)

○北海道新聞創刊80周年・UHB北海道文化放送開局50周年 Daiwa House® PRESENTS 熊川哲也 Kバレエカンパニー Autumn Tour 2022「クレオパトラ」

○ hitaru のひととき

・「魅惑のミュージカルナイト～姿月あさと 35th Anniversary Festival～」

・「尾高忠明 presents 偉大なる英国の巨匠たち」

・「hitaruオペラプロジェクト モーツァルト「フィガロの結婚」関連事業 声優朗読劇VORLESEN～フィガロの結婚～」

○文化庁 大規模かつ質の高い文化芸術活動を核としたアートキャラバン事業2022東京バレエ団<HOPE JAPAN 2022>

○スターダンサーズ・バレエ団公演 バレエ「ドラゴンクエスト」

## ▼ 共催事業の誘致

これまで札幌での開催が少なかった魅力ある大規模公演等の誘致に向けた取り組みを進めた。

①第三回さっぽろ落語まつり

②舞台「千と千尋の神隠し」

③ミュージカル「ミス・サイゴン」

④NORAH JONES JAPAN TOUR 2022

⑤2022 HTB ジルベスターコンサート

山海塾「降りくるものなかで—とぼり」は出演者の体調不良により関連事業含め中止になった。熊川哲也 Kバレエカンパニー「クレオパトラ」では熊川氏を含むトップクラスのダンサーによる華やかな舞台を提供した。

低料金で気軽に実演芸術に触れてもらうことを目的とした「hitaruのひととき」シリーズでは、元宝塚歌劇団宙組初代トップスターの姿月あさと等を迎えたコンサートや、hitaruの元芸術アドバイザーである尾高忠明の選曲・指揮によるコンサート、「フィガロの結婚」を題材にしたオリジナル脚本による朗読劇など、話題性の高い多様な舞台公演を開催し、幅広い層の市民が劇場に足を運んだ。

バレエは、東京バレエ団による人気演目の上演、スターダンサーズ・バレエ団によるオリジナルバレエ「ドラゴンクエスト」を上演し、質の高い作品の鑑賞機会を創出した。

「舞台『千と千尋の神隠し』」、「ミュージカル『ミス・サイゴン』」、「NORAH JONES JAPAN TOUR 2022」の3公演についてはチケットが全席完売し、多彩なジャンルの鑑賞機会を市民に提供することができた。

鑑賞事業では、「hitaruのひととき」シリーズを低料金で実施し、実演芸術鑑賞の裾野拡大に努めた。また、多面舞台を活かし、札幌では開催が困難だった大規模公演を誘致することで、これまで劇場に訪れたことがなかった市民に対してもアプローチした。

## ▼ 普及・育成事業

先進の舞台芸術を広く市民に紹介するとともに、舞台芸術活動の将来を担う世代の育成を目的に、多彩な芸術文化の提供と、教育的価値の高い事業を展開した。

## ○ 青少年向けバレエ鑑賞事業

＜配信事業＞青少年向けバレエ鑑賞事業

## ○ クリエイティブスタジオ活用事業

・シネマシリーズ4 映画へと導く映画(大九朋子)

・村川拓也「ムーンライト」

《関連事業》

・中高生のための「ムーンライト」レクチャー

・第1回 hitaru劇評入門～舞台公演を言葉に残す～村川拓也

「ムーンライト」

・第2回 hitaru劇評入門～舞台公演を言葉に残す～山海塾「降りくるものなかでーとぼり」(山海塾公演中止に伴い中止)

・劇団た組「ドードーが落下する」

## ○ 札幌大谷大学・札幌文化芸術劇場 hitaru連携事業

・アートプログラム2022 第1回 ミュージカル「ミス・サイゴン」見どころ・聴きどころ

・アートプログラム2022 第2回 オペラ「フィガロの結婚」見どころ・聴きどころ

青少年が人間性豊かな心を育むことを目的として、国内トップクラスの東京バレエ団の公演に市内中学2年生を無料招待する「青少年向けバレエ鑑賞事業」では、約2,000名の学生が劇場で実際のバレエを鑑賞したほか、過去のhitaru公演の映像をもとに教材動画を作成し、配信事業も併せて実施した。

「クリエイティブスタジオ活用事業」では、クリエイティブスタジオを会場に話題の映画監督が影響を受けた映画を紹介する「映画へと導く映画」、村川拓也による過ぎ去った時間を現在に立ち上がらせる名作「ムーンライト」、劇評の執筆を通して鑑賞体験をより深める方法をレクチャーする「hitaru劇評入門」(第2回は山海塾公演中止の伴い中止)、今演劇界で最も注目される気鋭の作家・加藤拓也率いる劇団た組の「ドードーが落下する」等、多彩なジャンルの実演芸術作品を実施し、市民の多様なニーズに応えるとともに、同会場の活用方法の柔軟性をアピールした。

大学など教育機関との連携事業では、hitaruで実施するオペラ・ミュージカルの内容をわかりやすく解説するレクチャーを札幌大谷大学と連携して企画し、公演への理解や興味を深める機会を提供した。

普及・育成事業では、「青少年向けバレエ事業」を実施し、若い世代の文化芸術鑑賞機会を創出した。また、札幌大谷大学と連携し、オペラ・ミュージカルの内容を解説する「アートプログラム2022」を実施することで、主催事業の広報につながった。

## ▼交流事業

札幌文化芸術劇場 hitaru、クリエイティブスタジオ、札幌文化芸術交流センターSCARTS、札幌市図書・情報館など、さまざまなジャンルの事業展開が可能な市民交流プラザの特性を活かし、多様な市民に参加・交流の場を提供して、多くの市民が文化芸術に触れることで施設のにぎわい創出につながる事業を実施した。

## ○PLAZA FESTIVAL 2022

- ・ミュージカル「ミス・サイゴン」
- ・PLAZA映像祭
- ・札幌芸術の森クラフトキャラバンワークショップ 街、森、クラフト
- ・あらためまして、SCARTSです
- ・つくり手から学ぶ北海道のワイン
- ・アートコミュニケーター「ひらく」と巡る常設アート鑑賞ツアー

## ▼ 舞台技術向上に向けた取組

全道の創造型劇場の中核として、舞台技術者の技術・技能の向上や知識・経験の共有を図るため、道内外の舞台技術者、または劇場職員を対象とした舞台技術セミナーを開催した。

- ①技術セミナーin hitaru 2022
- ②全国劇場・音楽堂等職員 舞台技術研修会(兼第3回hitaru 舞台技術セミナー)

また、高度な舞台機構や音響・照明設備を活用できる本劇場の舞台技術スタッフが他の劇場、音楽堂等及び実演芸術団体等と連携・協力し、地元の文化芸術の水準を高めるための取組として、舞台監督等の技術協力支援を行った。

- ①第62回子ども舞踊祭 会場：札幌市教育文化会館 大ホール
- ②高橋竜太ダンスワークショップDAY inSapporo 会場：札幌市教育文化会館 小ホール
- ③Dream of DancersⅦ 未来への夢 会場：札幌市教育文化会館 大ホール
- ④より子・バレエ・スタジオ第15回発表会 会場：札幌市生涯学習センター ちえりあホール
- ⑤カンマーフィルハーモニー札幌名寄特別演奏会 会場：名寄市民文化ホール EN-RAY ホール
- ⑥Farewell 2022 ピーターと狼 会場：東一丁目劇場(旧北海道四季劇場)
- ⑦第5回帯広市民バレエ 会場：帯広市民文化ホール 大ホール
- ⑧第63回子ども舞踊祭 会場：札幌市民ホール

札幌市民交流プラザのオープン4周年に際し、全館を用いた交流事業「PLAZA FESTIVAL 2022」を開催した。劇場ではミュージカル「ミス・サイゴン」公演、クリエイティブスタジオではPLAZA映像祭、SCARTSでは展示・トークでSCARTSのこれまでとこれからを考える「あらためまして、SCARTSです」、SCARTSと図書・情報館ではトークイベントを開催したほか、MORIHICOプロデュースによるマルシェを開催した。新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで、市民が様々な文化芸術に触れることができる場を提供した。

例年開催している舞台技術セミナーを、本年度は全国公立文化施設協会との共催で開催し、舞台技術者の技術・技能の向上や人材の育成のみならず、他劇場職員の技術向上にも寄与することができた。また、市内・道内の文化芸術団体の公演実施に際して、舞台技術の協力支援を行うことで、公演そのもの、ひいては地元の文化芸術の水準を高める一助とすることができた。

交流事業では、「PLAZA FESTIVAL」を実施し、劇場、図書・情報館、クリエイティブスタジオなど、施設全体を有効活用し、様々なジャンルの文化芸術の創造と鑑賞機会の提供を実現した。

舞台技術向上に向けた取組では、全国公立文化施設協会と共催して舞台技術セミナーを行うなど、舞台技術者の人材育成に寄与している。以上により、市民へ多様な文化芸術に触れる機会を提供し、かつ舞台芸術を支える人材育成に努めた点は高く評価でき、本市の要求水準を超える事業を行っている。

## ▽ 札幌文化芸術交流センターに関する事業

## ▼文化芸術の普及・発信、にぎわい創出事業

誰もが気軽に文化芸術に触れられる場や機会を創出し、都心部のにぎわいを生み出す事業を展開した。

また、地元アーティストや文化団体、専門機関との連携による特徴的な事業により、地域の魅力を高めつつ、SCARTSの認知度向上に繋げた。

## 【SCARTSクリエイションプロジェクト(リサーチ)】

## 【SCARTSメディアアーツシリーズ】

## ①++A&amp;T -SCARTS ART&amp;TECHNOLOGY Project- (プラプラット)

++A&T04 CoSTEP × SCARTS × 札幌の高校生たち

「地球をかたづける」ワークショップ成果展

〈関連プログラム〉

・クロージングトーク

## ②Side Effects 2022-2024 「IEIE, Reflected: Phase1」

展示:IEIEクロニクル

〈関連プログラム〉

・「IEIE, Reflected: Phase1」公開実験:サウンドビーム

## ③SCARTS × SIAFラボ 冬の展覧会2023「雪にまつわるエトセトラ」

〈関連プログラム〉

・ギャラリーツアー

## ④SCARTS × CoSTEP アート&amp;サイエンスワークショップ「漂う環境」

〈関連プログラム〉

・ライブパフォーマンス

SCARTSメディアアーツシリーズでは、札幌の特徴である雪をテーマにしたメディアアートを紹介する展覧会や、フィールドレコーディングを通して人と環境の関係性を考える若年層向けのワークショップなどを実施。大学や専門機関との連携による先進的で実験性が高い事業を展開することで、SCARTSの認知度を高め市民がメディアアーツに親しむ機会を創出するとともに、次世代を担う若年層が現代の表現に対する関心をもつきっかけをつくることができた。

SCARTSメディアアーツシリーズでは、札幌国際芸術祭と連携して展覧会を開催し、プラザを活用して市民と文化芸術事業をつなげる役割を果たした。

## 【SCARTS連携事業】

- ① Marché de GRENIER(マルシェ・ドゥ・グルニエ)
- ② 彫美連続講座2022
- ③ 大学連携コンサート
  - ・大学連携コンサート 北海道教育大学岩見沢校  
クラシックとジャズの出会い—フランス編
  - ・大学連携コンサート 札幌大谷大学  
ヴァイオリンとヴィオラの響き～時代と楽器を超える調べ～
- ④ 第51回SAPPOROぶんだんきょうフェスティバル
- ⑤ さっぽろ天神山アートスタジオ国際公募AIRプログラム  
2022-2023 展覧会「雪のうえにのびる道／The roads stretch on the snow」  
〈関連プログラム〉
  - ・ギャラリートーク&パフォーマンス
- ⑥ さっぽろアートステージ2022 ART STREET「キッズアートフェス」  
〈関連プログラム〉
  - ・祭太郎と一緒に大きなオブジェを作ろう！
  - ・カラフルな雪をふらせよう！ はじめてのデジタルアートワークショップ
  - ・見えない風の絵を描き、それを映像にしてみよう！
  - ・暖かい炎をイメージしたアニメーションを作ろう！
  - ・自分の顔を3D彫刻にしてみよう！
- ⑦ NoMaps2022
- ⑧ 第4回アートボランティアウィーク2022@SCARTS  
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。
- ⑨ 版画工房会館30周年関連事業 版画—いま・これから

## 【SCARTSパブリックリレーションズ】

- ① あらためまして、SCARTSですドキュメント展 2018-2021
- ② PLAZA FESTIVAL 2022 札幌芸術の森クラフトキャラバンワークショップ「街、森、クラフト」
- ③ PLAZA FESTIVAL 2022「MORIHICO. Marché de GRENIER(マルシェ・ドゥ・グルニエ)×プラザマルシェ」
- ④ 西2丁目地下歩道映像制作プロジェクト
- ⑤ SCARTSアニュアルレポート

SCARTS連携事業では、連携協定を締結する大学や文化団体等、当財団が管理する他施設と連携し、SCARTSをハブとしてさまざまな文化芸術活動をつなげ、それぞれの専門性を活かした事業を展開した。

SCARTSパブリックリレーションズでは、SCARTSのこれまでの活動などを分かりやすく紹介するドキュメント展を実施し、文化芸術に関心の低い層を含めてSCARTSの認知度向上に寄与した。また、札幌市民交流プラザへの主要な入口となる西2丁目地下歩道を活用し、国内外の著名な映像作家による新作映像を上映することで、市民が多彩な映像表現に日常的に触れる機会を創出し文化芸術意識の醸成に貢献した。

SCARTS連携事業では、「大学連携コンサート」を実施し、市民が気軽に文化芸術に触れる機会を創出した。また、「キッズアートフェス」では、子ども自身が文化芸術活動を体験できる機会を創出した。SCARTSパブリックリレーションズでは、西2丁目地下歩道を活用し映像コンテンツを発信することで、市民が文化芸術への興味を高めることに寄与した。

▼文化芸術活動支援事業・文化芸術に関する調査研究事業  
札幌の文化芸術活動のさらなる発展を目指し、様々な支援事業を展開した。

市民や地元アーティストが抱える悩みの解決を手助けする対面相談サービスや、より専門性の高い内容や具体的な内容を掘り下げ、学びの場となるラーニングプログラム、意欲的で発展性の高い企画を公募により実施する公募企画事業、札幌の文化芸術振興に寄与する優れた活動を支援する助成金交付事業、アートと人々をつなぐボランティアな活動を支援するアートコミュニケーション事業など、幅広い層を対象に直接的・間接的に支援を行うなど、札幌における文化芸術活動の活性化につなげた。

また、文化芸術活動を発展させるうえで欠かせない、国や他都市の動向や先進的な文化芸術活動などに関する基礎的な調査研究を行ったほか、SCARTSの一年間の活動をまとめたアニュアルレポートを発行した。

#### 【SCARTSサポート事業】

##### ①SCARTS相談サービス

##### ②SCARTSラーニングプログラム

- ・西2丁目地下歩道映像制作プロジェクト  
小田香作品《Underground》スクリーン上映&トーク
- ・あらためまして、SCARTSです オープンミーティング
- ・さっぽろ天神山アートスタジオ 北海道AIRミーティング  
「アーティストの滞在制作の現場 AIR in Hokkaido」

##### ③公募企画事業

- ・SCARTS企画公募2023
- ・あたらしい民話presents さっぽろの民話  
〈関連プログラム〉
  - ・さっぽろのあたらしい民話をつくろうワークショップSCARTS編
  - ・さっぽろの民話 読み語りライブ
- ・North PRINT—北海道の現代版画—  
〈関連プログラム〉
  - ・ワークショップ「銅版画メゾチント体験」
  - ・ワークショップ「シルクスクリンで巾着プリント」

文化芸術に関わる情報を収集し、インフォメーションカウンターやウェブを通じて広く市民に発信した。対面相談サービスでは、これまで蓄積してきた知見や人脈を活かし、イベントの組み立てや広報などベーシックな内容から、支援情報の提供など多岐にわたる相談内容に対応し、市民の文化芸術活動の活性化に貢献した。

SCARTSラーニングプログラムでは、SCARTSやSCARTSの各事業に関連したトークイベント等を実施することで、参加者の興味関心を広げ内容についての理解を深めるとともに、SCARTSの認知度向上にもつなげることができた。

文化芸術活動支援事業では、「SCARTS相談サービス」を実施し、文化芸術団体等が気軽に相談ができる環境づくりを行った。また、公募企画事業によって、地域の活性化にフォーカスしたアーティストや文化芸術団体への活動機会を与えた。

<p>④札幌文化芸術交流センター SCARTS 文化芸術振興助成金交付事業</p> <p>&lt;令和4年度助成金交付&gt;</p> <p>特別助成事業2件、一般助成事業12件 総額約470万円</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度 札幌文化芸術交流センター SCARTS 文化芸術振興助成金交付事業 活動報告会</li> </ul> <p>&lt;令和5年度内定&gt;</p> <p>応募件数115件</p> <p>特別助成事業1件、一般助成事業20件、総額609万円内定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度 札幌文化芸術交流センター SCARTS 文化芸術振興助成金交付事業 募集説明会</li> </ul> <p>⑤アートコミュニケーション事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講座 全14回</li> <li>・実践活動、鑑賞レポート</li> <li>・人とアートをつなぐ SCARTSアートコミュニケーター「ひらく」をふりかえる展</li> </ul> <p>&lt;関連プログラム&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鑑賞ワークショップ「コトバで紡ぐ音楽」</li> <li>・ひらく映画部の「ゆるゆる映画トーク会」</li> <li>・鑑賞ワークショップ「みる・かんがえる・はなす・きく」</li> <li>・ふりかえりトーク「ひらくさんいらっしやい」</li> </ul> <p>⑥文化芸術に関する調査研究事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査研究</li> <li>・SCARTS アニュアルレポート</li> </ul>	<p>文化芸術振興助成金交付事業では、令和4年度実施分として約470万円を交付し、優れた文化芸術活動の支援に寄与した。</p> <p>令和5年度募集については、前年の約2倍となる115件の応募から計21件を採択し、609万円を内定している。</p> <p>アートコミュニケーション事業では、専門家による講座に加え、鑑賞ツアーなどの実践活動に積極的に取り組み、参加者の中から生まれたアイデアを活かしながら年間を通じて活動を行った。その結果、卒業生の多くは自発的にアートと人々をつなぐ活動をしており、市民の創造的な活動の支援に大きく貢献した。また、2・3期生の卒業にあたり、これまでの活動をふりかえる展示とイベントを実施し、多くの市民にその活動の成果を伝えた。</p> <p>調査研究では、全国13の文化施設のほか、「国際芸術祭あいち」「岡山芸術交流」を訪問し、他都市の動向や先進的な文化芸術活動等に関する調査研究を行った。</p> <p>また、SCARTSの活動をまとめたアニュアルレポートを発行し、市民だけでなく、全国の文化関係者に対し一年間の活動の成果を伝えた。</p>	<p>文化芸術振興助成金交付事業では、全14団体に対し助成金を交付し、文化芸術活動への支援を実現した。応募件数は昨年度を大きく上回っており、認知度が高まってきたことが認められる。</p> <p>以上より、市の要求する水準を満たす適切な管理運営が行われている。</p>
--	--	---



## (5)施設利用に関する業務

## ▽ 利用件数等

		R3年度実績	R4年度計画	R4年度実績
劇場	件数(件)	234		261
	人数(人)	195,294	—	297,019
	稼働率(%)	79.9%	80%	87.7%
クリエイティブスタジオ	件数(件)	230		302
	人数(人)	17,301	—	24,491
	稼働率(%)	71.2%	75%	86.0%
練習室等	件数(件)	3,220		4,280
	人数(人)	22,086	—	34,649
	稼働率(%)	59.7%	60%	73.5%
センター	件数(件)	1,899		2,436
	人数(人)	51,005	—	124,940
	稼働率(%)	63.3%	75%	76.9%

▽ 不承認 0件、取消し 62件、減免 2,212件、還付114件

## ▽ 利用促進の取組

## ▼一斉受付実施の告知

ホームページにて、次回の一斉受付の告知を毎月行った。

▼練習室・控室の利用促進を図るため、昨年度に引き続きPRチラシを作成し、市内公共施設や創世スクエア管理組合等に配布を依頼し、PRに努めた。

## ▼利用者からのご要望の改善

利用者アンケートに基づき、利用者からのご要望のあった点を共有するとともに、改善に向けて検討を行った。

## ▼貸館施設内インターネット環境の強化

かねてより要望の多かった貸館施設内でのWi-Fi利用について、環境の再整備を行い利用可能な施設を増やし、利用者利便の向上を図った。

## ▼利用者登録制度の導入

定例的、継続的な諸室利用者がよりスムーズな申請手続きを行えるよう、利用者登録制度を導入し、登録者は申請から施設利用料の支払までを同時に行えるようにした。

新型コロナウイルス感染症の影響については、若干の還付や取消などあったものの、概ねコロナ禍以前の水準まで回復した。

貸館受付においては、利用者が安心して申請、利用が出来るよう、引き続き受付ブースにパーテーションを設置し、お客様が触れる備品類については都度消毒を行った。

また、お客様から要望が多かったインターネット環境の整備については、3階の控室、練習室にも新たにWi-Fi環境を整え、利用者のニーズに合わせた改善を行った。

このほか、定例的、継続的な諸室利用者に向けた「利用者登録制度」を導入し、登録者は申請から施設利用料の支払までを同時に行えるようにし、よりスムーズな手続きを行えるように改善を図った。

A B C D

利用人数については目標値に届いていないものの、新型コロナウイルス感染拡大の影響により施設の貸出制限を設けたことが要因であり、このような状況下でも劇場及びクリエイティブスタジオの稼働率は目標を達成するなど、全体として回復傾向にあることは評価できる。また、利用者アンケートの回答を踏まえインターネット環境を整備するほか利用者登録制度を導入するなど、利用者の利便性向上に努めている。以上より、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。

(6)付随業務	▽ 広報業務		A	B	C	D
	<p>▼広報</p> <p>①事業広報との連携強化 公演・イベントの周知、チケット販売促進や、施設入館者数の目標達成を目指し、情報誌等の印刷物やホームページ、SNS等の多様な媒体を活用して、札幌市民交流プラザの機能や事業の広報を積極的に行った。</p> <p>(1)地下鉄パンフレット広告 主要駅の地下鉄フリーパンフレットコーナーにて、イベントスケジュール誌「PLAS」を配架した。</p> <p>(2)協賛広告枠の活用 札幌文化芸術劇場hitaruオフィシャルスポンサー企業の広告協賛枠等を活用し、地下鉄大通駅コンコース及び地下街オーロラタウン、丘珠空港、市内大型スーパーマーケット、路線バス車内等において動画の放映やチラシの配架、ポスター広告の掲示等を行った。</p> <p>②広報印刷物の制作</p> <p>(1)情報誌「WAVE TIMES」 札幌市民交流プラザの情報誌「WAVE TIMES」を4回(5月、8月、11月、2月)発行し、区役所等の市内公共施設や関係団体へ送付したほか、公演・イベント会場等でも広く配布した。</p> <p>(2)イベントスケジュール冊子「PLAS」 札幌市民交流プラザを構成する3施設の公演・イベントを掲載するスケジュール冊子「PLAS」を6回(5月、7月、9月、11月、1月、3月の各月20日)発行し、区役所等の市内公共施設や関係団体へ配布した。</p> <p>(3)「創成おさんぼMAP」 近隣地域のにぎわいを醸成するため、札幌市民交流プラザメンバーズ会員向け特典提供店を紹介する地図形式の冊子を作成し、メンバーズ(DM会員)に送付したほか、協力店舗や札幌市民交流プラザ館内各所で配架した。また、利用促進のため、秋にはSNSを活用した「#おさんぼMAPキャンペーン」を実施した。</p> <p>(4)アクセス動画 市民交流プラザの認知度、並びにアクセスについての情報を広く周知するため、15秒の広告動画を制作した。制作した動画はさっぽろ地下街の「AUMIRUビジョン」「HILOSHIビジョン」の2カ所で上映した。</p> <p>③ホームページ ホームページ・SNSの活用 ホームページを通じて、主催事業や貸館公演などのイベント情報を随時発信し、広く札幌市民交流プラザの周知を図るとともに、英語ページも作成し、外国人向けに情報発信を行った。ウェブアクセシビリティへの対応にも留意し、JISX8341-3:2016の適合レベルAA準拠を維持した。</p> <p>また、Twitter、Facebook、InstagramといったSNSも活用し、即時性のある情報を発信した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公式ホームページアクセス数 令和4年度:1,476,048件 (参考)令和3年度:1,468,110件</li> <li>・札幌市民交流プラザメンバーズホームページアクセス数 令和4年度:159,290件 (参考)令和3年度:271,146件</li> </ul>	<p>「WAVE TIMES」「PLAS」の発行、ホームページのリニューアルやSNSの活用、各種パブリシティでの広報展開により、プラザ内で行われる主催事業等の告知を行いチケット販売促進につなげた。</p>		B		<p>公式ホームページやSNS、情報誌での情報発信を行い、広くイベントや施設について広報に努めている。メンバーズの会員やスポンサーも数多く集めており、本市の要求水準を満たしているものと認められる。</p>

## ▼利用促進

## ①施設利用に関するチラシの発行

札幌文化芸術劇場hitaru及び札幌文化芸術交流センターSCARTS諸室の貸館利用促進に向け、地元興行主との情報交換を密にするほか、「ご存じですか？プラザの貸室使い方いろいろ」を配布して会議や練習での利用を促した。

## ②会員制度

## (1)会員制度の募集及び運営

主催公演のチケット先行発売や公演情報の提供などを特典とする会員制度「札幌市民交流プラザメンバーズ」を運営。令和5年3月31日までにWEB会員42,690人、DM会員691人、計43,381人の会員を集めた。

(参考)令和3年度:WEB会員38,674人、DM会員734人、計39,408人

## (2)会員特典

- ・メールマガジン配信(WEB会員向け、原則1ヶ月に2回)
- ・ダイレクトメール送付(DM会員向け、原則奇数月)
- ・hitaru主催公演のチケット先行発売
- ・プラザ内カフェ・レストランでの優待
- ・近隣のホテル・飲食店等での各種優待
- ・避難訓練コンサートの企画

## ③協賛制度の募集及び運営

札幌文化芸術劇場hitaruの主催共催事業の充実を目的とする「hitaruオフィシャルスポンサー」制度を運営。

令和3年度のスポンサーとして、法人106社、個人53人、計159件(8,860万円及び広告枠)の協賛を獲得した。

利用促進チラシの配布や会員向け特典を充実させるなど、安全な施設利用の促進に取り組んだ。

## ▽ 引継ぎ業務

(前回から継続指定のため、引継業務なし)

2 自主事業その他			A	B	C	D					
▽ 自主事業 施設の賑わいの創出とともに寛ぎの空間を提供することを目的に、カフェ「MORIHICO.芸術劇場」及びレストラン「DAFNE」を営業。 レストラン「DAFNE」にて、お節販売の継続や、創世スクエアオフィス棟の企業へのフライヤーポスティングなど、前年度からの取り組みを継続したほか、4月から、近隣のオフィスワーカーが休憩時間に45分間で楽しめるランチメニュー「ブラド45」の提供を開始するなど、ニーズに寄り添ったメニュー開発にも取り組んだ。 また、施設と各委託事業者の月例会議(OS会議)に代表者1名が出席することとし、劇場・クリエイティブスタジオの公演情報(来場見込み等)を事前に共有することで、カフェ・レストランともに無駄のない営業に務めた。		施設との連携強化を図りながら、ニーズに対応し、効率的な営業を行うことができた。 ランチメニューの開発等により店舗の認知度を高め、施設の賑わいの創出に努めた。				カフェ・レストランについては一定の集客により、賑わい創出に貢献している。また、業務委託時に地元企業や福祉施設の活用を意識的に行っており、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。					
▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等 ▼ 市内企業等の活用 施設の管理運営に必要な再委託業務について、概ね札幌市内に事業所を有する企業に発注した。 ▼ 福祉施策への配慮 職員用ブルゾン製作におけるロゴ印刷作業を、近隣の福祉施設に発注した。また、設置している自動販売機のうち1台を、札幌市内の社会福祉団体に依頼した。		再委託業務について市内企業への発注を行うなど、市内企業の活用に努めた。 また、福祉施設・団体への発注を行い、福祉施策の推進に努めた。									
3 利用者の満足度											
▽ 利用者アンケートの結果											
<table border="1"> <tr> <td>実施方法</td> <td>施設を利用する主催者および主催事業の来場者へアンケート用紙を配布するほか、館内にアンケート台を設置。施設・設備の使い勝手の良さや、職員対応等に対する意見・要望の把握に努めた。</td> </tr> <tr> <td>結果概要</td> <td>貸館利用者・主催事業の来場者の施設に対する総合的な満足度は93.8%、職員対応の満足度は97.5%であった(「満足」「おおむね満足」「普通」合計)。 また、貸館利用者の98.7%が「また利用したい」と回答した。  全体回答数: 5,353件</td> </tr> <tr> <td>利用者からの意見・要望とその対応</td> <td>・清潔でいいですね。 ・館内職員の方がとても丁寧に対応して下さり、とても利用しやすかったです。 ・予約申し込みのネット利用希望します→令和5年度のシステム改修を目標として検討中 ・申し込み時にお支払いができると良いです→利用者登録制度を導入し、登録者は申し込みと同時に支払可能とした。</td> </tr> </table>	実施方法	施設を利用する主催者および主催事業の来場者へアンケート用紙を配布するほか、館内にアンケート台を設置。施設・設備の使い勝手の良さや、職員対応等に対する意見・要望の把握に努めた。	結果概要	貸館利用者・主催事業の来場者の施設に対する総合的な満足度は93.8%、職員対応の満足度は97.5%であった(「満足」「おおむね満足」「普通」合計)。 また、貸館利用者の98.7%が「また利用したい」と回答した。  全体回答数: 5,353件	利用者からの意見・要望とその対応	・清潔でいいですね。 ・館内職員の方がとても丁寧に対応して下さり、とても利用しやすかったです。 ・予約申し込みのネット利用希望します→令和5年度のシステム改修を目標として検討中 ・申し込み時にお支払いができると良いです→利用者登録制度を導入し、登録者は申し込みと同時に支払可能とした。	市民のニーズを踏まえた施設運営を実施するため行っている利用者アンケートについては、施設利用者の増加回復に伴い、アンケート回収数が大幅に増加した。 利用者アンケートの中で要望の多かったWi-Fiについては、昨年度実施した4階控室への整備に加え、3階控室への整備も実施し、環境整備を図った。 コロナ禍以降は受付カウンターにアクリル板の設置、貸室の鍵や貸出物品の都度消毒等、感染防止対策に努め、利用者が安心して利用できるよう努めた。				「総合満足度」及び「職員の待遇に関する満足度」は、本市の要求水準である80%を大きく超えている。アンケート回収件数5,353件であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響と考えられ、本市要求水準のとおりに、10,000件以上の回答を得られるよう努めていたと認められる。また、アンケートで寄せられた意見に対する改善も行っており、本市の要求水準を超えている。
実施方法	施設を利用する主催者および主催事業の来場者へアンケート用紙を配布するほか、館内にアンケート台を設置。施設・設備の使い勝手の良さや、職員対応等に対する意見・要望の把握に努めた。										
結果概要	貸館利用者・主催事業の来場者の施設に対する総合的な満足度は93.8%、職員対応の満足度は97.5%であった(「満足」「おおむね満足」「普通」合計)。 また、貸館利用者の98.7%が「また利用したい」と回答した。  全体回答数: 5,353件										
利用者からの意見・要望とその対応	・清潔でいいですね。 ・館内職員の方がとても丁寧に対応して下さり、とても利用しやすかったです。 ・予約申し込みのネット利用希望します→令和5年度のシステム改修を目標として検討中 ・申し込み時にお支払いができると良いです→利用者登録制度を導入し、登録者は申し込みと同時に支払可能とした。										

4 収支状況				新型コロナウイルスの影響による施設利用制限が解除となり、当初計画より貸館稼働率が上昇したため、利用料金収入が大幅に増加した。 支出については、光熱水費の高騰に伴い支出が大幅に増加したが、事業運営の経費削減等を実施し、収益の減少幅を補うことに努めた。	A B C D
▽ 収支 (千円)					
項目	R4年度計画	R4年度決算	差(決算-計画)		
収入	1,376,955	1,464,155	87,200		
指定管理業務収入	1,331,428	1,414,571	83,143		
指定管理費	1,031,145	1,047,075	15,930		
利用料金	197,600	233,197	35,597		
その他	102,683	134,299	31,616		
自主事業収入	45,527	49,584	4,057		
支出	1,386,955	1,389,720	2,765		
指定管理業務支出	1,307,329	1,314,593	7,264		
自主事業支出	79,626	75,127	▲ 4,499		
収入-支出	▲ 10,000	74,435	84,435		
利益還元			0		
法人税等			0		
純利益	-10,000	74,435	84,435		
▽ 説明					
<p>▼ 指定管理費について、今期は令和4年1月～令和4年10月の施設キャンセル、令和4年4月～令和5年3月までの光熱費高騰分の補填を受けたことにより、増収となった。</p> <p>▼ 収入については、新型コロナウイルスの影響により中止となった事業があったものの、収容人数制限が解除されたこともあり、公演の実施件数が増え、当初計画より貸室稼働率が上昇したため、利用料金収入が大幅に増加した。</p> <p>▼ 支出については、光熱水費の高騰に伴い支出が大幅に増加したが、事業打合せにオンライン会議を用いることで旅費を削減、イベント周知においてもコロナの状況を鑑み範囲を最小限としたことで、印刷物等の費用削減に努めた。</p> <p>▼ 上記の費用削減に努めつつ、オンラインでの練習・会議目的での貸室利用の増加に伴う、全貸室でのネット接続を可能とするため、昨年度実施した4階貸室への専用Wi-Fi整備に加え、3階貸室への整備も実施し、より快適で充実した施設となるよう環境整備を図った。</p>					

<確認項目> ※評価項目ではありません。			
▽ 安定経営能力の維持		適	不適
▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応		適	不適

## III 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	来年度以降の重点取組事項
<p><b>【管理運営事業】</b>            コロナ禍においても利用者が安全かつ快適に利用できる環境を維持・推進することにより、管理運営を徹底することができた。</p> <p>施設運営においては、新型コロナウイルスの影響による施設利用制限が解除となり、利用者数が平常時に近い水準となったとともに、施設や事業における広報・宣伝活動を積極的に行うことにより、目標値を上回る稼働率で終わることができた。</p> <p>また、貸館事業においては、利用者の貸館申込手続き省力化の取組、Wi-Fi利用可能な施設を増加する環境の再整備を実施し、利用者の利便性・稼働率向上に務めた。</p>	<p><b>【管理運営事業】</b>            新型コロナウイルス感染拡大が落ち着きつつあるが、引き続き安定的な施設運営を目指しつつ、職員のスキルアップを図るなど、運営水準のさらなる向上を図り、状況の変化に即して適切に対応できる安定した運営を行っていく。</p> <p>また、これまで以上に施設や事業の広報活動を行うことで、稼働率や来館者数の目標値を上回ることを目指していく。</p> <p>そのほか、施設管理においては開館5年目となる年度のため、設備や備品の修繕の増加が考えられるが、定期点検を実施することで、施設内設備全般の機能を長年にわたり良好に維持管理できるよう努めていく。</p>
<p><b>【主催事業】</b>            ・札幌文化芸術劇場</p> <p>多面舞台と最新の舞台機能を生かしたクオリティの高い舞台芸術に親しむ場を市民に提供し、文化芸術に関心をもってもらえるよう多彩な事業を実施した。地元音楽家やスタッフの力を結集した「hitaruオペラプロジェクト」の第1回公演として、劇場独自のプロダクションによりモーツァルトのオペラ『フィガロの結婚』を発表した。約1年の準備期間においては、地元音楽家の育成、インターシップの受け入れ、オペラファンを増やすための普及事業の実施など多層的な事業展開に努めた。</p> <p>また、北海道出身のバレエダンサー熊川哲也率いるKバレエカンパニー、東京バレエ団やスターダンサーズ・バレエ団を招聘し、市民に本格的かつ大規模な公演の鑑賞機会を提供することができた。さらに、低廉な価格で様々なジャンルの公演を楽しめる「hitaruのひとつとき」シリーズ、第一線で活躍する映画監督によるレクチャーイベント、気鋭の演出家による演劇公演、hitaruのセルフプロデュース企画「Creative Art Mix」など広範なジャンルの文化芸術を市民が享受する機会を創出した。劇場独自企画による事業では地元アーティストに参加してもらい、アーティスト同士の交流や研鑽の場を設けるとともに、地元で活躍するアーティストたちの魅力を市民に紹介することができた。劇場に足を運んでの鑑賞に加え、市内中学2年生を対象としたバレエの配信鑑賞、主催事業の有料アーカイブ配信(R4年度公演についてはR5年度に実施)など、昨年度に引き続きコロナ禍における新しい鑑賞機会を提供した。</p> <p>事業運営に関しては、全国公立文化施設協会等のガイドラインに基づいた感染対策の順守、助成金の獲得(Arts for the future!2/地域創造 創造プログラム)、SNSを活用した若年層への広報の強化等に取り組んだ。</p> <p>主催事業の来場者満足度は96.9%(令和4年度10事業平均)と非常に高い結果となった。</p>	<p><b>【主催事業】</b>            ・札幌文化芸術劇場</p> <p>これまで札幌では招聘が困難であった大規模なオペラやバレエ公演などの鑑賞機会を引き続き提供していくとともに、令和5年度においては、創造型劇場の取組をさらに推進するため、市内で活動する実演芸術団体、芸術系大学、アーティスト、舞台技術者と共に北海道・札幌発の実演芸術を創造する「hitaruバレエプロジェクト」を始動、第1回公演として「くるみ割り人形」を上演する。鑑賞の裾野を広げる関連事業の展開、プロジェクトを支える人材の育成や持続可能な体制づくりも含め、関係各所と緊密に連携していく。また、令和6年度開催予定の第2回hitaruオペラプロジェクトの準備も並行して進めていく。</p> <p>クリエイティブスタジオでは、質の高い様々なコンテンツの事業を継続して展開することで、市民が舞台芸術と出会い、興味を深める機会を創出していく。</p> <p>なお、次世代を担う青少年(中学2年生)を対象としたバレエ鑑賞事業については、豊かな感性を育む事業として引き続き実施するとともに、大学等との連携により舞台芸術を支える様々な分野の人材育成にも注力していく。</p> <p>また、文化庁の助成金「舞台芸術等総合支援事業(劇場・音楽堂等機能強化総合支援)」が採択され、国内トップ12館として我が国を代表する施設としての評価を受けた。(令和5~9年度予定)。ビジョンとして掲げた次世代創造型劇場を目指し、主催事業においてもこれまでの取り組みに加え、創造力・企画力・発信力などをさらに高め、実演芸術の拠点としての役割を担っていく。</p>

<p>・札幌文化芸術交流センター 「アートを介し、ひと・もの・ことをつなぐ」という使命にもとづき、札幌のアートセンターとして各事業を通してさまざまな文化芸術活動をつなげていく役割を果たすとともに、「文化芸術の普及・発信、にぎわい創出事業」と「文化芸術活動支援事業」の2本の柱に沿って様々な事業を展開し、札幌の文化芸術振興に貢献することができた。</p> <p>「文化芸術の普及・発信、にぎわい創出事業」であるメディアアーツシリーズ、連携事業、パブリックリレーションズでは、専門性の高いSIAFラボや北海道大学CoSTEP、連携協定を結ぶ北海道教育大学・札幌大谷大学、札幌で活動を続けるさっぽろ天神山アートスタジオや札幌文化団体協議会など、幅広い団体との連携により、質の高い芸術鑑賞機会を市民に提供するだけでなく、次世代を担う人材の育成や、先進的・実験性の高い事業による創造性の涵養など、各団体の強みを活かした事業を展開し、札幌の各アート分野・機関を結びつけ牽引する「クリエイションハブ」としての役割を果たすことができた。</p> <p>「文化芸術活動支援事業」であるサポート事業では、SCARTSの施設を有効活用し、市民と共同で事業を実施する公募企画事業により、市民に対して文化芸術の創造と表現の場を提供・支援することができた。相談サービスでは、プロとして活動しているアーティストや団体からの相談の希望も増えてきており、札幌のアートセンターとしての認知度向上が実感できた。助成金交付事業では、優れた文化芸術活動への費用の支援により、札幌市の文化芸術の振興と発展に寄与することができた。</p>	<p>・札幌文化芸術交流センター 令和5年度は札幌を代表する国際的なアートイベントである札幌国際芸術祭(SIAF)の開催年にあたり、会場の一つとしてSCARTS施設が使用される。SIAF2024は、アート、テクノロジー、サイエンスが交差する新しい表現や先進的なアイデアを持つ作品・プロジェクトを通して未来を考えることを目指しており、メディアアーツシリーズの目的及び内容と重なる部分が大きく、かつ道外や海外からの注目度も非常に高いことから、これまでの事業の蓄積や成果を活かし連携事業としてSCARTS会場における制作に取り組む。</p> <p>SCARTSの主幹事業であるクリエイションプロジェクトについては、令和6年度の実施に向け、全国のアートセンター等の文化施設や事業についてのリサーチを継続し、SCARTSの施設特性や今日の社会状況等を踏まえた事業構築を図る。</p> <p>パブリックリレーションズについては、令和5年度で市民交流プラザ開館5周年を迎えることから、プラザフェスティバルにおいてシンポジウムを開催し、より市民に開かれたアートセンターとしてSCARTSの認知度向上を目指す。また、西2丁目地下歩道映像制作プロジェクトは令和4年度までに制作された6作品で一区切りとし、既存の映画祭等との連携により新たな事業スキームの構築を図る。</p> <p>サポート事業については、相談サービスで需要の高い内容をラーニングプログラムとして実施したり、助成金に関する相談として相談サービスの利用を促すなど、これまでの内容を継続しつつ、各事業で扱う課題やテーマを相互に関連付けていくことで、より重層的な支援内容の構築を目指していく。</p>
<b>【所管局の評価】</b>	
総合評価	改善指導・指示事項
<p>全般的に本市の要求水準を満たしており、適切な管理運営が行われている。</p> <p>新型コロナウイルスによる施設利用制限解除に伴い、効果的な広報等を実施し稼働率の回復に努めた点は評価できる。</p> <p>また、避難訓練コンサートの実施や、一時滞在施設マニュアルの作成など、要求水準を超えた対応について、高く評価できる。</p> <p>さらに、hitaruオペラプロジェクトやCreative Art Mixにおいて、札幌発の質の高い実演芸術公演を実現させるとともに、中学生の公演招待や大学との連携等、若い世代に向けたアプローチに工夫がみられる。</p> <p>加えて、令和4年度からはSCARTS文化芸術振興助成事業金交付事業を実施し、令和5年度の募集については、前年の2倍となる115件もの応募があったことは高く評価できる。</p> <p>その他、多様な文化芸術の鑑賞機会を創出しており、本市の施策に沿った文化芸術の拠点としての役割を果たしている。</p>	<p>経営面においては、引き続き経費削減、効率的な運営に努めること。利用者アンケートで多くの要望が上がっているインターネットでの練習室予約導入に向け、システムの正確性保持の徹底及び利用者の利便性向上のための環境整備に努めること。</p> <p>新型コロナウイルス感染症については、必要時応じて感染症対策を講じ、今後も多くの方が安心して利用できる魅力ある文化芸術の創造・発信の場としての役割を担っていただきたい。</p>